

2. 意見交換

発言

- ・河川堤防の草の研究をしている
- ・家庭でも除草に困っている

発言

- ・河川堤防では毎年除草－焼却で何億円も使っている。お金を煙にしている形なのでコスト削減が課題となっている。

発言

- ・低い草は名物として売り出したら？と考えている。チガヤは堤防管理上有益なので雑草に区分できない。最近の虫刺されについては医者も経験がなく原因・対処が分からない場合が増えた。
- ・セアカゴケグモの毒性は？
- ・(森意見) セアカゴケグモ毒はタランチュラよりスズメバチより強い毒。危険である。越冬中に自動販売機にいて刺された事例もある。知多半島、常滑方面はたくさん繁殖して困っている。雑草の有無に関係なく餌となる虫がいるところでは繁殖する。移動能力が優れているので、最近では報道されないが県内はどこにでもいる。卵嚢で生まれるので薬剤、熱にも強い。特定外来種であるが法的に処分方法が決まってない。
- ・ビオトープの管理って？自然を残せ、子供に虫被害が出ないようにと矛盾した要求がある。
- ・(森意見) 薬剤ダメといいながら害虫、蛇は駆除してくれという矛盾した要求がある。しかし、共通に体表に砂がつくところは嫌がるようだ。砂場・裸地を増やすことが有効かもしれない。
最近 5 年でハチ駆除依頼、蝙蝠駆除依頼が爆発的に増加している。農薬使用停止時期と関連していると思われる。蝙蝠は 5 ミリ網でないと阻止できないのでどこからか家に入るので結局阻止できない。

発言

- ・害虫を考えると今後の公園管理が心配になる。

森発言

- ・危険を知っておればそんなに危険ではない。教員を含めて害虫に対する市民の興味がな

くなっている時代となっていることが問題。ゴキブリに対する異常反応と無農薬野菜に対するこだわりという低レベルな時代背景となっている。一方、見たことのない外来種が増えていることも心配。

竹谷理事長まとめ

1 情報時代だが自然との付き合いについては低レベルになっている。肌感覚になっていないので生活の知恵になっていない。

2 雑草とは何かを考えなおさねばならない。身の回りの植物の利用方法、価値の理解が必要。雑草学会は目的を阻害する植物を雑草とし、除外するとしているが昔は有用だったものもある。暮らしにどう生かすか知恵を持つことが必要。利用する文化があれば雑草とならない。

※当初予定していた現場見学は時間がたらないので省略し、その分意見交換を充実させることにした。